

LIBRARY NEWS

CHIKUSHI JOGAKUEN UNIVERSITY & JUNIOR COLLEGE LIBRARY

「読書感想文コンクール」審査結果について

図書館長 川邊 武芳

第4回（平成20年度）「読書感想文コンクール」の審査結果を発表します。学生の図書館利用と読書の奨励を目的に、読書感想文を募集しましたところ16編の応募がありました。応募数は昨年より少なかったのですが、初めて短期大学部（現代教養学科）から2編の応募がありました。

応募作品を大学・短期大学部の各学科、共通教育研究代表、館長で構成する図書委員10名の選考委員が、公正を期するため学科と氏名をふせて、各作品を慎重に審査した結果、以下のとおり入賞者が決まりました。「最優秀賞」受賞の高松麻美さんの感想文はこの裏面に掲載しますので読んでください。また、全入賞作品を図書館のホームページ上に掲載しますので、自由にアクセスして読んでください。

最優秀賞	高松麻美	（日本語・日本文学科3年）
優秀賞	原万里子	（日本語・日本文学科4年）
佳作	西田さやか	（日本語・日本文学科4年）
佳作	今村涼子	（日本語・日本文学科3年）
佳作	近藤直生	（英語学科3年）

講評：受賞作品はいずれも深刻なこころの問題を扱った、中島 敦、中村文則、重松 清、吉本隆明、山田詠美の作品を読んで、自分の生き方や今の社会現象のなどに照らして考えている力作ばかりであった。

高松さんは「山月記」を読んで尊大さゆえに人との関係を断つ「孤独」の怖さを、原さんは「土の中の子供」のなかに「虐待」を受けて育った主人公に芽生える「人間らしさ」に救いを、西田さんは『舞姫通信』からのメッセージ「人は死ぬる。いつ。いつか。いつでも。」を手がかりに「自殺」を、今村さんは『ひきこもれー』を通して「ひきこもり」の逆説的な意味を、近藤さんは『ぼくは勉強ができない』で押しつけられる一般的な「価値観」への疑問を、それぞれ正解のない人生のなかで自分の答えを探そうとしている。

物質的に豊かな時代に育ってきた学生たちも、就職や資格など実利を追求だけでなく、ぼくらが吉本隆明（吉本ばななの父親）の『共同幻想論』をバイブルにしたように、精神的には飢え、こころの糧や「よすが」を求めているのだろう。どの時代も青春は迷いや悩み多し。今の若者は軽薄だなどと言うなかれ！

選に漏れたなかにも、塚本真未さんの『カラフル』、田中亜矢巳さんの『テレフォン・セラピー』など、よくできた感想文があった。また文学ばかりでなく、元村葉津美さんの『世界を信じるためのメソッド：ぼくらの時代のメディア・リテラシー』のような（情報）教育や、文化、歴史、伝記など、興味のある本ならなんでも読み、共感したり疑問を抱いたりしたことを文章にする、それが感想文である。あなたの参加を待っています。

「山月記」を読んで

日本語・日本文学科3年 高松 麻美

「発達と文化」の授業で、人は孤独に陥ると魔に魅入られやすいのだと聞いたとき、ふと「山月記」のことが思い出された。「山月記」の李徴が虎になってしまったのは、彼が孤独だったからではないのかと思えたのである。「山月記」は、高校生の頃に国語の授業で学んだ作品だ。この作品を授業で取り扱う前、先生が思わせぶりな言葉を言ったことを、私はよく覚えている。「山月記はな、あんまり授業でやりたくないだよ。自分のことのように感じて、作品にのめり込んでしまう人が出てくるから」そう先生は言った。そんな言葉を聞いたために、私はこの作品へと強く興味を持った。その興味は高校を卒業して数年経っても薄れることがなく、今でも度々「山月記」のことが思い出されてならない。

数年の時を経て、再び「山月記」に手を伸ばす。少しだけ大人になった私を読み取ったのは、関係性の喪失ということだった。プライド高い李徴は、人との交わりを絶ってひたすら詩作に耽った。しかしその詩で名をあげることができずに、ある日とうとう発狂する。戸外で自分の名を呼ぶ声は、内なる猛獣の声だったのだろう。「人間は誰でも猛獣使い」という作中の言葉には、非常に頷けるものがある。人は時折、思いもよらぬ行動を起こすことがある。例えば、凶悪な事件が起こったときにニュースは「あの人があんなことをするなんて」というインタビューの様子を伝える。そこでは一体何が起こったのか。その問いには、内なる猛獣を解放してしまったのだと答えよう。人は皆、心の内に猛獣を棲まわせており、多くの場合は巧みになだめ、ごまかし、ときには噛みつかれるなどの怪我を負いつつもなんとか手なずけている。

猛獣を解放してしまう最大の原因は何だろうか。私はそれを、孤独だと感じる。その孤独とはどこから生じるかといえば、他者との関係を失うことによるだろう。私はよく、他者との関係を自ら進んで絶ちきることをする。どんなに愛しい人でも、近すぎる距離や無遠慮な干渉が堪らなくなって一切を遮断するのだ。後悔してもどうしようもなく、つながりは切れたままで、深い孤独へと落ちて行った私はその瞬間、李徴の様に虎になっているのではないのか。そして再び人と交わることでまた私の姿を取り戻し、そうやって異形と人とを行き来して日々を生きているように思う。

初めて「山月記」を読んだとき、私は李徴を可哀想な男だと突き放して見ていた。けれど、今なら感じられる。李徴の姿は私の姿であったと。そして、長くこの作品が心に引っかかって離れなかったのは、そのことを薄々気づいていた自分がいたからだと知った。現代人はしがらみを鬱陶しく思いながら、絶えず他者とのつながりを求めている。例にもれず、私もそんな矛盾を抱えた現代人の一人である。虎になる行為はなかなかやめられないけれど、できるだけ早く私の姿へ戻る努力をしたい。そんなことを思わされた。



『青い鳥』を探そう — 図書館の契約データベース紹介その4 —

1 プロローグ

11月、やっと秋らしくなってきた今日この頃です。図書館で最も人気の高いDVDコレクションにも「幸せのちから」「バベル」「青い鳥」などの映画が新しく仲間入りしました。

「青い鳥」といえば皆さんお馴染みメーテルリンクの童話ですが、1976年制作のこの映画はエリザベス・テイラー主演、アメリカ・ソ連（当時）合作のバレエミュージカルです。チルチル・ミチルは勿論子役でエリザベス・テイラーはその母親と光の精の二役。ほかに様々な妖精の役でレニングラード・バレエ団のダンサーが出演しています。

「青い鳥」とバレエの組み合わせって?と感じたら、図書館のデータベースで調べてみましょう。

2 ブリタニカ・オンライン

図書館のデータベースにも「ブリタニカ・オンライン」が新しく仲間入りしました。これは「ブリタニカ国際大百科事典」を中心に、その原版である「Encyclopædia Britannica」、ブリタニカ系列のフランス語版「Encyclopædia Universalis」、スペイン語版「Gran Enciclopedia Planeta」、中国語版「Britannica Concise Encyclopedia」、韓国語版「Britannica Online Korea」と、各国の代表的な百科事典をオンラインで検索することができるものです。

「ブリタニカ国際大百科事典」の大きな特徴は大項目事典（Knowledge in Depth）と小項目事典（Ready Reference）の2種の事典で構成されていること。小項目事典では幅広い事象について簡潔に知り、大項目事典では特定のテーマを深く体系的に調べることができます。

3 ブリタニカの青い鳥

それでは図書館ホームページ左側の【契約データベース】から【オンライン事典・辞典】にアクセスし、その中の「ブリタニカ・オンライン」にログインして『青い鳥』で検索してみましょう。

すると「小項目事典」に『ベルギーの劇作家 M. メーテルリンクの夢幻的童話劇。』とあり、この作品がもともと戯曲であったことが判ります。さらに画面下の『“青い鳥”で本文の検索をしますか?』をクリックしてみると「小項目」で8件、「大項目」で5件ヒットします。このうち「大項目」の『メーテルリンク』では、その生い立ちから作品解説まで5頁にわたり記載があります。

「小項目」にも『メーテルリンク』がありますが、こちらは簡潔な人名事典といったところです。事典の本文中にある『青い鳥』を探した結果なので、あまり関係がなさそうなものの中には含まれているようですが、例えば「小項目」の『水谷八重子』をクリックしてみると、新劇女優として認められるきっかけが「青い鳥」のミチル役であったことを知ることができます。

4 グローバル・レファレンスセンター

「ブリタニカ・オンライン」の「ホーム」画面右上にある「グローバル・レファレンスセンター」は各国の百科事典への入口です。クリックすると現在提供されている5ヶ国語の百科事典の一覧画面が開きます。それぞれの説明文右下にある『Click to Enter』からログインできます。中国語版・韓国語版は英語でも検索することができます。

試しに『Maeterlinck』でそれぞれの事典を検索してみましょう。5ヶ国語すべての事典でヒットしますから、このノーベル賞作家がいかに世界的に評価されているかを覗いて知ることができます。特にフランス語版で多くの頁を割いているのは、作品がフランス語で発表されていたことによるのかもしれませんが。日本語訳はありませんが、中国語ではメーテルリンクを『梅特林克』と表示することが判ったり、結構楽しめます。「青い鳥」ってやっぱり深い!?

英語版「Encyclopaedia Britannica Online」は「ブリタニカ・オンライン・ジャパン」の『ブリタニカ・オンラインの関連項目へ』からもリンクされています。

5 Web版百科事典

最後に百科事典を利用するコツを一つ。複数の事典、それもできるだけ多くの事典で同じ項目を調べてみることで。面倒なようですが、実行してみるとその理由がきつとわかります。

図書館でもブリタニカのほかに「ジャパナレッジ（小学館日本大百科全書）」「ネットで百科（平凡社世界大百科事典）」英語版の「Gale Virtual Reference Library」などオンライン事典データベースを複数契約しています。いろいろ試してみてください。

学生図書委員会第一回選書を終えて

今年の4月から学生図書委員会が発足しました。委員の皆さんには第1回選書に携わっていただき、選書図書は好調に利用されています。そこで、委員の皆さんに感想を寄せてもらいました。

選書という活動を通して、自分の好きな本や気になった本をみなさんに紹介でき、またそれを読んでもらえるということがすごく魅力的です。
自分の好きな作品を他の人にも気に入ってもらえたらうれしいです。(時松)

自分の読みたいと思えるエンターテイメント系の本を中心に選びました。
これを機会に、学生の皆さんが本を手にとってくれるようになったり、読書の幅が広がったりしてくださると嬉しいです。(高取)

今回、選書に参加して、自分の選んだ本が図書館に並び、借りられていくことに喜びを感じました。心理学科ならではの本を中心に選書することで、自分らしさも出すのと同時に自身の勉強にもなり、とてもいい経験をさせていただきました。(田中)

図書委員として初めての選書をしました。どんな本をみんなが求めているのか、学生目線で選ぶことはとても難しく悩みましたが、楽しかったです。
また次の選書では、いろいろな種類の本を選び図書館が活気づいて欲しいと思います。(洲崎)

自分が選んだ好きな本を多くの学生の皆さんが手に取り、興味を持ってもらえて、とてもうれしいです。学生の目線で選んでいるので、あまり本を読まない人でも、きっと目に留まる本があるのではないかと思います。次回の選書でも皆さんに喜んでもらえるような良い本をたくさん見つけたいと思っていますので、ぜひ図書館に足を運んでみて下さい。(國武)

私の選んだ本が早速多くの学生さんに貸し出されていることを知り、とても嬉しいです。これからもたくさん本を読んでほしいと思います。(中野)

自分の読みたい本を買っていただけなので、本好きにはたまりません。今まで以上に本に触れ、図書館に行く機会も増えたので読書欲がわきました。(近藤)

記念すべき第一回目の学生図書委員会の活動で7月上旬に選書ツアーを行いました。事前に月に2,3回のミーティングを開き図書委員それぞれが興味を持っている本をリストアップし、天神の丸善で本を選びました。リストには上げていなかった本を、書店で実際に手にすることで購入を決めた方も多かったようです。図書委員一人につき2万円の上限の中で自由に本を選ぶことが出来ました。オススメの本のPOPを書くことには苦戦しましたが、それを見て本を借りてくださる方が居ることを聞き嬉しかったです。
他大学でも数年前から学生図書委員会による図書購入等が活発に行われています。これを機に図書館の活動に興味を持っていただければ、と思います。
図書館司書を目指している私にとっても、とても良い経験になりました。(案浦)

前期学生図書委員

案浦 志帆 (日文4年)
近藤 直生 (英語3年)
中野由美香 (英語3年)
國武 桃子 (アジア3年)
洲崎紗緒里 (アジア3年)
高取 里衣 (日文2年)
田中亜矢巳 (心理2年)
時松寿々菜 (日文1年)



★ 図書館より ★

学生図書委員の皆さんが選んだ図書は図書館ホームページ
(<http://www.lib.chikushi-u.ac.jp>)の「図書館資料の検索」でチェックできます。
検索条件入力画面の右(マイライブラリの左)にある「カテゴリ検索」をクリック、
「学生図書委員選書図書」の「第1回」で今回の選書図書一覧が表示されます。
図書の内容詳細には学生図書委員のコメント(推薦のこぼれ)付きのものもあります。
画面の下の方までスクロールしてみましょう。

発行 筑紫女学園大学・短期大学部附属図書館
〒818-0192 福岡県太宰府市石坂2丁目12-1
TEL 092(925)9910 FAX 092(925)3318
URL <http://www.lib.chikushi-u.ac.jp>
印刷 久野印刷株式会社